

関係各位

(財)日本バスケットボール協会

日本協会に寄せられた新しいルールへの質問について

平成18年4月1日から施行されているルールについて、いくつかの質問が寄せられております。質問が寄せられた事項については、(財)日本バスケットボール協会では以下のように回答いたしております。具体的な事例も挙げておきますので、関係各位におかれましては、正しくすみやかな伝達、および確認と徹底を宜しくお願い申し上げます。

1. 第4ピリオドまたは各延長時限の最後の2分間にバック・コートからスロー・インをするチームにチャージド・タイム・アウトが認められた場合、スロー・インの位置が「オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインの位置」からとなったが、このとき、続けて相手チームがチャージド・タイム・アウトを請求し認められたときは、スロー・インの位置はもとの位置にもどされるのか？

回答:

もとの位置にはもどさない。

一度当該チーム(バック・コートからスロー・インを行うチーム)にチャージド・タイム・アウトが認められたあとは、当該チームがスロー・インを行う位置は、「オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインの位置」からとなる。

事例

第4ピリオドの最後の2分間に、フロント・コート内でA5がドリブルをしている間に、ゴール下でA5からのパスを受けようとしていたA4に3秒ルールのヴァイオレーションが宣せられた。

このとき、

チームAにチャージド・タイム・アウトが認められた。

ゲームが再開される前に、チームBのコーチが続けてチャージド・タイム・アウトを請求し、認められた。

チームBにチャージド・タイム・アウトが認められた。

ゲームが再開される前に、チームAのコーチが続けてチャージド・タイム・アウトを請求し、認められた。

それぞれの場合、ゲームを再開するチームBのスロー・インはどこから行うのか？

回答/処置:

、のいずれの場合も、ゲームを再開するチームBのスロー・インは、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインの位置から行われる。

2. 第4ピリオドまたは各延長時限の最後の2分間にバック・コートからスロー・インをするチームにチャージド・タイム・アウトが認められ、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインの位置からスロー・インをする場合、「スロー・インをするチームは、フロント・コートにボールを進めたときみなされ、8秒の制限は終わったことになる」とあるが、バック・コートに向かってスロー・インをしたときは、もう8秒ルールは適用されないのか？

回答:

適用される。

8秒ルールは、いったんフロント・コートにボールを進めたときでも、そののちふたたびバック・コート内でライブのボールをコントロールしたときに、あらたにその制限が始まることになる。

したがって、この場合も、スロー・インしたボールをバック・コート内でコントロールしたときには、あらたに8秒がカウントされ始めることになる。

事例

第4ピリオドの最後の2分間に、バックコート内でA4がドリブルしているボールがB4に触れてからアウト・オブ・バウンズになった。このとき、24秒計は残り19秒を示していた。

バックコートのスローインの位置でチームAにスローインのボールが与えられる前に、チームAのコーチがチャージド・タイム・アウトを請求し、認められた。

チャージド・タイム・アウトが終わり、ゲームが再開されるときに、A5がオフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンターラインの位置からスローインをしたボールを、バックコート内にいるA6が直接キャッチした。

このとき、24秒と8秒はどのようにかぞえればよいのか？

回答/処置:

- 24秒については、A6がボールをコントロールした時点から、残り19秒から継続して計測される。
- 8秒については、A6がバックコート内でボールをコントロールした時点から、あらたに8秒がかぞえ始められる。

以上